

桜蔭俳話会 六月句会(第三六六回)

平成三十年六月三十日(土)

会場・旭区民文化センター(サンハート)

- 4点①はらからの遺骨へ日傘差しかけり 才美
- 3点①手に沁みる土の匂ひや茄子の花 友子
- 3点①震災を生き抜く力三尺寝 眞壽
- 3点 放水の吼え立つ「黒部」山青葉 才美
- 2点①ゆつくりと身を起す獅子木下閣 才美
- 2点①夏落葉ちちははの墓終ひけり かほる
- 2点①生者みな朽ちてゆきけり青葉風 守
- 2点 老い先は開き直りや青嵐 友子
- 2点 ぞろゆく青葉時雨や深大寺 守
- 2点 緑陰の石に腰掛け郵便夫 幸
- 2点 アスファルトへ影を走らす夏燕 友子
- 2点 遺伝子の寝付きの早さ熱帯夜 かほる
- 2点 イタリアンのレシピと届く夏野菜 友子
- 2点 仲見世の寄り道多しかき氷 友子
- 2点 少年や青葉時雨を走る走る 才美
- 2点 出漁の主に懐き梅雨の犬 才美
- 1点①胆石の静かなりたる熱帯夜 かほる
- 1点 震度六揺れに抗がふ青葉かな 明美
- 1点 日時計はまだ十時過ぎ日向水 守
- 1点 青葉の奥に放水のダムの音 明美
- 1点 走茶を絞る急須のひとつく 幸
- 1点 禅堂の先陣一人青葉風 守
- 1点 鮑屑透ける涼しさ指物師 幸
- 1点 バス停の屋根は小さし梅雨に入る 邦子
- 1点 振り向けば白髪のおオーデコロン 才美
- 1点 祝杯の冷茶たてたる茶筌かな 守
- 1点 父の日や聞き手に徹する父ありき 友子
- 1点 俳諧の切字泰山木の花(神高校庭) 幸
- 1点 夏蝶の宙をつかみて幼児立つ 邦子
- 1点 めまといやゲームアプリのパスワード 守
- 1点 「うぶげや」てふ刃物の老舗片かけり 友子
- 1点 予定なき日の米朝や藺座蒲団 かほる
- 1点 白南風に日本サッカー決勝へ 直子
- 1点 甲羅干しの亀の整列梅雨晴間 友子

※

- 水琴窟ひとつ日傘に娘とかがむ 才美
- 朝練の指導者ひとり青葉かな かほる
- ノルディックウオーキングや青葉風 守
- 庭石の産地は遠し花菖蒲 友子
- 枇杷熟れて改憲護憲の終着点 明美
- 風に咲く白きどくだみ祖母の墓 邦子
- 石垣の上の曼茶羅青蜥蜴 守
- 倒木へひとり腰掛く青葉風 友子
- 父の日も何もしない子我恥じる 直子
- 鎌倉路青葉若葉のうつろうて 邦子
- 幼子の嘘は未来凶鴟高音 才美
- 水打つて一人暮らしの老紳士 幸
- 雨に濡れ青葉生き生き媪見ゆ 直子
- 白日傘小脇に挟み帽子選る 才美
- 梔子や庭でひそかに匂ひけり 直子
- 尺取や我が家で何をさがしてる 直子
- ダービーを取つて家族に奢る父 眞壽
- 花菖蒲葉組みあざやか卒寿の師 かほる
- 炎天や風の擾乱収まらず 守
- ドンファン的人生かなし螢飛ぶ 直子
- 梅雨の雨パチンコ玉の如く降り 眞壽
- 東京の若葉青葉や道開く かほる
- 朝顔に井戸や釣瓶もはるかなり 幸
- 長き夜富山団扇は夏を告ぐ 直子
- 日焼け止め塗つて精出す草むしり 眞壽
- 青葉騒しんかんと立つ殉教像 才美
- 朝粥の火を落としけり夏の蝶 守
- 蹴り込みしボレー鮮やか夏の芝 明美
- 梅雨の朝ワールドカップで眠不足か 直子
- 黴匂ふ柱時計のにぶき音 邦子
- 玄関もあぢさひ活ける日曜日 かほる
- 日焼けしてセットプレーのひとの壁 明美
- 遊ぶ子に青葉茂りて傘となる 眞壽
- 梅雨晴れや歌と踊りの喜楽会 かほる

(欠席投句 古野明美、稲葉 幸)

「事務局からお知らせ」

○第一三十回通信句会 作品募集

夏の季語を用いた三句。締め切りは八月五日(日)。
同封の葉書でお送り下さい。

○七月句会

七月二十九日(日)、旭区民文化センター(サンハート)で行います。兼題は、「蚊」です。

○八月句会は休会です。

○九月句会

九月二十三日(日)旭区民文化センター(サンハート)で行います。

○十一月の旭区俳句展について

今年も参加することになっています。

出展句の締め切りが八月十日ですので、七月の句会に一句決めてきてください。

短冊は十月の句会までに用意してください。